



Let's fly tomorrow

衣丘小だより 27号 令和8年1月7日



2026 明けましておめでとうございます 今年もよろしくお願いします

★冬休み明け全校集会の校長の話★

丙午は干支の組み合わせで、火の勢いと馬の力強さを象徴し、「挑戦」「情熱」「前進」の意味が込められています。新しい年を迎えた子どもたちに対して、次のような話をしました。一部を紹介します。（青字は児童作文の引用部分です）



校長先生は、元旦に拳母神社の歳旦祭（さいたんさい）という年の始まりを祝う行事に参加して、衣丘小学校の皆さんのが一年間健康で過ごせるようにお願いしてきました。～中略～

「一年の計は元旦にあり」という言葉があります。これは「一年をどう過ごすかは、年の初めにしっかり計画を立てることが大切」という意味です。目標を決めて計画を立てることで、毎日の行動が変わります。

みなさんの中に、1年間だけではなく6年間頑張り続けていることを作文に書いた人がいるので紹介します。題名は「自分のために」です。作文の内容は、小学校1年生から始めた6年間の自主学ノートが、夏休みの時点で自主学ノート33冊目、ページにすると1930ページになったというものです。

「1日分はたったの1ページ、でも積み重ねれば、1日ではとうていできない量になる。担任の先生や母のおかげで続けることができた。卒業式をむかえるころには37冊、2171ページになっている予定の自主学ノート。毎日こつこつ一歩ずつ、ぼくの成長の証だ。」

1年生から続けているなんて素晴らしいですよね。でも作文を読むと、6年間ずっと順調に自主学を続けてきたわけではなく、めんどうくさくてやめたかったこともしそうあり、今日くらいはやらなくてもいいかと思った日も多かったそうです。みなさんこの気持ち分かりますよね。

「何のために、だれのために自主学ノートをやっているのか、もう一度考えてみる。1年生のころ、勉強がしたくて始めた自主学ノート。やりたいことがたくさんで、初めての漢字がうれしくて、たくさん書いた。6年生の今はどうだ。」
と、自分に問いかけています。

「自主学ノートを1日1ページやること、ただやるだけ、うめるだけになっていた。やったからいいでしょって、どんどん雑になった自主学を見直した。」

校長先生はこの作文を読みながら、継続することの難しさと大切さを改めて考えました。この作文の最後は、

「1年生のときに母が教えてくれた、自分のためになる自主学ノート。こつこつとこれからも、積み重ねていこう、未来の自分のために」と結んでいます。

3ヶ月後の4月1日には、6年生は中学生という新たな道に進んでいます。1~5年生も一つ学年があがります。1月から3月は短いですが大切な時期です。それは、中学校へ進学したり、一つ上の学年に進級したりするための準備をするためにあるからです。今の学年になったときに立てた目標を達成するために、日々努力をしていますか。もしかしたら目標を忘れてしまった人もいるかもしれません。今はっきりとした目標をもっていない人は、ぜひ、今日目標を立てて行動に移していきましょう。いつでもスタートを切ることができます。作文を紹介した6年生のように、こつこつと積み上げたものがあれば自信となり、これから先、壁にぶつかっても、きっと乗り越えることができるときができます。校長先生は信じています。



今年も子どもたちの笑顔を大切にしながら学校経営を進めて参ります。
これまでと変わらぬご理解とご協力を願っています。

校長室に掲示している
応援メッセージです